

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本赤十字社への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		理学部臨床検査技師養成コース病院実習	石田 智子	東邦大学医療センター佐倉病院 輸血部	臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ、血漿239.0mL
2		教育目的の検査実習	五十嵐 昌徳	福島県立総合衛生学院	学院長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿2バッグ、血漿255.0mL、検査残余全血20本
3		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	三島 祐子	杏林大学 保健学部	学内講師	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ
4		検査用の精度管理用コントロールの製造	新井 秀夫	オリエンタル酵母工業(株)	常務取締役 バイオ事業本部長	②	②	検査残余血清1834000.0mL
5		ヒト血漿セレブリンPの精製およびその機能解析	斎藤 芳郎	東北大学大学院 薬学研究科	教授	②	①	血漿41バッグ、血漿7953.0mL
6		茨城県臨床検査技師会による所属施設への輸血検査業務支援(精度管理)	岩田 幸広	(公社)茨城県臨床検査技師会	生命倫理検査部門 輸血・移植検査分野 分野長	①	①	赤血球5バッグ、血漿2バッグ、血漿486.0mL
7		富山県臨床検査精度管理協議会	北島 勲	富山県臨床検査精度管理協議会	医師	①	①	赤血球3バッグ、血漿601.0mL
8		愛知県臨床検査精度管理調査(輸血検査部門)	藤田 孝	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球1バッグ、血漿1705.0mL、検査残余全血2本
9		愛知県臨床検査技師会 輸血検査研究班 基礎講座	藤田 孝	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球1バッグ、血漿1バッグ、検査残余全血20本
10		輸血検査の実習	畠山 真奈美	北海道医学技術専門学校	教員	①	①	赤血球12バッグ、血漿4バッグ、血漿50.0mL
11		認定輸血検査技師協議会認定試験	加藤 栄史	認定輸血検査技師協議会	試験委員長	①	①	赤血球8バッグ、血漿9バッグ、血漿952.0mL
12		医学部学生の血液型判定の実習	横須賀 忠	東京医科大学 免疫学分野	主任教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
13		国家検定、取去試験、および規格試験の実施	池辺 詠美	国立感染症研究所	厚生労働技官	①②	②	検査残余全血72本
14		臨床免疫学実習における輸血検査の指導	白土 佳子	埼玉県立大学	准教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ、血漿263.0mL
15		抗血小板抗体検出試薬製造に必要な有効期限切血小板製剤について	松本 佳明	ベックマン・コールター・三島株式会社 テクニカルオペレーション2グループ	マネージャー	②	①②	血小板161バッグ、血小板792.4mL
16		マラリア原虫のガメトサイト形成機構の解明	筏井 宏実	北里大学 獣医学部	准教授	②	①	赤血球12バッグ
17		輸血検査部門の精度管理	南 貴普	一般社団法人 徳島県臨床検査技師会	精度管理委員会 輸血検査部門責任者	①	①	赤血球4バッグ、血漿506.0mL
18		埼玉県医師会臨床検査精度管理事業	金井 忠男	埼玉県医師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2334.0mL
19		抗マラリア原虫薬の開発	渡邊 信元	国立研究開発法人 理化学研究所 環境資源科学研究センター	嘱託職員	②	①	赤血球24バッグ
20		卒前卒後医学教育(輸血検査実習)	田野崎 隆二	慶應義塾大学病院 輸血・細胞療法センター	教授	①	①	赤血球4バッグ
21		マラリア原虫の増殖機構及び宿主-マラリア原虫相互作用の解明	堀井 俊宏	大阪大学 微生物病研究所	寄附研究部門教授	②	①	赤血球23バッグ、血漿7バッグ、血漿2116.0mL
22		マラリア原虫感染後の赤血球内部に構築される膜に対する機能解析	早川 枝幸	自治医科大学 医学部 医動物学部門	助教	②	①	赤血球17バッグ、血漿6バッグ
23		ヒト赤血球膜蛋白質バンド3の構造-機能相関研究	隈 博幸	長崎国際大学 薬学部	教授	②	①	赤血球10バッグ
24		栃木県臨床検査精度管理調査	長島 徹	一般社団法人 栃木県医師会	副会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿503.0mL
25		輸血・移植検査学実習	登尾 一平	学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 医学検査学科	講師	①	①	赤血球5バッグ、血漿2バッグ、血漿674.0mL、血小板2バッグ
26		アミノ酸制御による新規のマラリア治療・予防法の開発研究	嘉糠 洋陸	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座	教授	②	①	赤血球12バッグ、血漿10バッグ、検査残余血清300本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
27		学生実習(輸血検査学実習)	西岡 安彦	徳島大学 医学部	学部長	①	①②	赤血球4バッグ、血漿1156.0mL、セグメント全血160本、検査残余全血45本
28		日本輸血・細胞治療学会認定医制度認定試験	面川 進	日本輸血・細胞治療学会	認定医制度審議会 長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
29		ABO式血液型の判定	藤田 尚宏	山口県警察本部 科学捜査 研究所	所長	②	②	検査残余全血144本
30		学生実習(血液型、不規則抗体検査、交差適合試験)	小野寺 利恵	山陽女子短期大学 臨床検査 科	准教授	①	①②	赤血球2バッグ、血漿1449.0mL、検査残余全血21本
31		学生の輸血検査学実習	山田 久	学校法人明経学園 美萩野 臨床医学専門学校	教員	①	①	赤血球1バッグ、血漿247.0mL
32		総コレステロール測定用試薬及びトリグリセライド測定用試薬の性能試験等の際に自家使用する高濃度リポ蛋白画分試料の調製	仲野 瞬	株式会社 セロテック	課長	②	②	検査残余血清150000.0mL
33		マラリア原虫のゲノム情報に立脚した新規の診断、治療、予防法の開発研究	西川 義文	帯広畜産大学 原虫病研究 センター	教授	②	①	赤血球8バッグ
34		学生実習(輸血検査)	笠原 聡	新潟医療技術専門学校	専任教員	①	①	赤血球6バッグ、血漿4バッグ、血漿257.0mL
35		大分県医師会精度管理調査(輸血検査)	河野 幸治	一般社団法人 大分県医師 会	会長	①	①	赤血球5バッグ、血漿1284.0mL
36		岡山県精度管理調査(輸血部門)	藤岡 克徳	一般社団法人 岡山県臨床 検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿1244.0mL
37		臨床検査精度管理調査	藤原 祝子	一般社団法人 長野県臨床 検査技師会	精度管理事業部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿236.0mL
38		山口県精度管理調査	楢林 秀紀	一般社団法人 山口県臨床 検査技師会	臨床検査技師	①	①	赤血球5バッグ、血漿949.0mL
39		輸血・移植検査学実習(神戸常盤大学保健科学部医療検査学科の学生実習)	坂本 秀生	神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科	学科長	①	①②	血漿11バッグ、血漿2バッグ、血漿731.0mL、検査残余全血40本
40		輸血検査学実習	小澤 優	京都保健衛生専門学校 臨床 検査学科	教務部長	①	①	赤血球10バッグ、血漿1バッグ、血漿1244.0mL
41		法医学実務、薬毒物分析センター実務、及び薬毒物分析法確立のため使用する。	岩井 雅枝	愛知医科大学 医学部 法医学	助教	②	②	検査残余全血80本
42		岩臨技精度管理事業 輸血・移植部門	高館 潤子	岩手県臨床衛生検査技師会	輸血・移植部門担当	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿283.0mL
43		医学教育用	藤好 麻衣	久留米大学病院 臨床検査 部	臨床検査技師	①	①	赤血球7バッグ、血漿2バッグ、血漿509.0mL
44		免疫検査学実習	望月 泰男	昭和医療技術専門学校 臨床 検査技師科 教務課	副校長	①	①	赤血球12バッグ、血漿9バッグ
45		急性リンパ性白血病(ALL)における定量PCRを用いた微小残存病変(MRD)測定法の確立と臨床的意義の検討	眞田 昌	名古屋医療センター 臨床研究 センター	高度診断研究部長	②	②	検査残余全血500本
46		九州・沖縄地区臨床検査精度管理事業	柳原 克紀	九州臨床検査精度管理研究 会	会長	①	①	赤血球9バッグ、血漿5バッグ、血漿6827.0mL
47		新生児・妊婦におけるマスキリーニングの改善と精度向上	山口 亮	札幌市衛生研究所	所長	②	①	赤血球1バッグ
48		公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 輸血研究班活動	加藤 正輝	公益社団法人 兵庫県臨床 検査技師会	輸血研究班長	①	①	赤血球1バッグ、血漿476.0mL
49		静岡県医師会臨床検査精度管理	松島 江理	静岡県臨床検査精度管理委 員会	臨床検査技師	①	①	赤血球3バッグ、血漿835.0mL
50		山形県臨床検査精度管理	佐藤 大亮	一般社団法人 山形県臨床 検査技師会	臨床検査技師	①	①	血漿2バッグ、血漿486.0mL
51		本学 輸血検査学実習	中村 揚介	昭和大学病院 輸血センター	臨床検査技師	①	①	赤血球84バッグ
52		学生実習(臨床免疫学における輸血検査実習)	国分寺 晃	広島国際大学	教授	①	①	赤血球6バッグ、血漿1バッグ、血漿1142.0mL
53		輸血テクニカルセミナー2022実技講習会	松下 正	日本輸血・細胞治療学会	理事長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
54		二級臨床検査士免疫血清学、緊急臨床検査士資格認定試験および免疫血清学技術講習会	宮地 勇人	公益社団法人 日本臨床検査同学院	理事長	①	①	赤血球5バッグ、血漿6バッグ
55		多項目実用参照物質の作製と評価	篠原 克幸	公益社団法人 日本臨床検査標準協議会	多項目実用参照物質委員会副委員長	①	②	検査残余血清30000.0mL
56		熱帯熱マラリア原虫人工染色体による遺伝子ライブラリー作製とそれを用いた薬剤耐性遺伝子の同定	岩永 史朗	大阪大学微生物病研究所	教授	②	①	赤血球 49 バッグ、血漿 51 バッグ、血漿 8325.0mL
57		感染症流行予測調査	今川 正紀	厚生労働省 健康局 結核感染症課	感染症情報管理室長	②	②	検査残余血清1587本
58		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	稲福 全人	学校法人 湘中央学園 湘中央医学技術専門学校	校長	①	①	赤血球15バッグ、血漿4バッグ
59		精度改善事業	芹澤 明彦	一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球5バッグ、血漿4バッグ
60		輸血・血液型検査実習	芹澤 昭彦	一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球5バッグ
61		マラリア原虫の分子細胞生物学的解析および時空間的動態解析	金子 修	長崎大学 熱帯医学研究所	教授	②	①	赤血球50バッグ、血漿17バッグ、血漿234.0mL
62		輸血教育学	井上 孝	東京医学技術専門学校	学校長	①	①	赤血球18バッグ
63		(一社)鳥根県臨床検査技師会 精度管理調査輸血検査部門	領家 敬子	(一社)鳥根県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿707mL
64		佐賀県医師会臨床検査精度管理調査	枝園 源一郎	公益財団法人 佐賀県健康づくり財団	副理事長(臨床検査担当理事)	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿532.0mL
65		滋賀県臨床検査技師会精度管理事業(輸血部会)	西村 好博	(公社)滋賀県臨床検査技師会	滋賀県臨床検査技師会 精度管理委員輸血部会代表	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿676.0mL
66		広島県臨床検査精度管理調査	松村 誠	広島県医師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿915.0mL
67		精度管理調査用試料として	棚村 一彦	一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿528.0mL
68		滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実技研修会	山中 博之	(公社)滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門	臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿212.0mL
69		輸血・移植免疫学実習	五十嵐 康之	北里大学保健衛生専門学校	専任教員	①	①	赤血球5バッグ、血漿7バッグ、血漿269.0mL
70		千葉県臨床検査技師会輸血部門精度管理	綿引 一成	一般社団法人 千葉県臨床検査技師会	会長	①	①	血漿350.0mL
71		マラリアワクチンの研究	高島 英造	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	准教授	②	①	赤血球24バッグ、血漿4バッグ、血漿3202.0mL
72		マラリア原虫の赤血球寄生分子機構の研究	橋 真由美	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	助教	②	①	赤血球12バッグ、血漿3バッグ、血漿3418.0mL
73		学生実習(輸血検査)	赤坂 和美	旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部	副部長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿643.0mL、セグメント全血160本
74		福島県臨床検査技師会 精度管理事業	渡辺 隆幸	福島県臨床検査技師会	精度管理事業部 精度管理委員長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿236.0mL
75		人工赤血球(赤血球代替物)の開発	小松 晃之	中央大学 理工学部	教授	①②	①	赤血球6バッグ
76		医療費適正化効果のある特定健診・特定保健指導の臨床検査に関する効果的エビデンスの提供を保障する精度管理調査試料の作製と活用	宮島 喜文	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会	代表理事会長	①	②	検査残余血清70000.0mL
77		マラリア原虫の <i>in vitro</i> 培養系を用いた薬剤耐性研究	坂元 晴香	東京女子医科大学	准教授	②	①	血漿8バッグ
78		学生における輸血検査教育・実技講習	池田 和彦	福島県立医科大学	教授	①	①	赤血球54バッグ
79		初期研修医 輸血検査実習	大崎 浩一	雪の聖母会 聖マリア病院	輸血科 診療部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿772.0mL
80		培養熱帯熱マラリア原虫を用いた薬剤標的分子の探索研究	金 恵淑	岡山大学	准教授	②	①	赤血球16バッグ、血漿406.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
81		マラリア原虫のオルガネラの解析	野崎 智義	国立大学法人 東京大学大学院 医学系研究科 生物医化学教室	教授	②	①	赤血球19バッグ
82		新生児マスキリーニングの精度管理	但馬 剛	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 研究所 マスキリーニング研究室	室長	②	①	全血649.0mL
83		輸血実技講習会	三平 りさ	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 學術部輸血検査部門	世話人責任者	①	①②	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿259.0mL、検査残余全血8本
84		輸血検査実習	小野 孝明	浜松医科大学医学部附属病院	病院教授	①	①	赤血球18バッグ、血漿8バッグ、血漿2216.0mL
85		学生実習(輸血検査学、臨床検査体験演習など)	一原 直人	純真学園大学 保健医療学部 検査科学科	准教授	①	①	赤血球9バッグ、血漿1バッグ、血漿692.0mL
86		宮城県臨床検査技師会 精度管理調査	岩木 啓太	宮城県臨床検査技師会	輸血検査部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿4バッグ、血漿300.0mL
87		熱帯熱マラリア原虫の赤血球侵入機構および細胞内物質輸送機構の解析	大槻 均	鳥取大学 医学部	准教授	②	①	赤血球24バッグ、血漿486.0mL
88		感染症検体パネルの整備	加藤 孝宣	国立感染症研究所	ウイルス第二部室長	②	①	血漿9200.0mL
89		石川県医師会臨床検査精度管理調査	安田 健二	石川県医師会	医師	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿485.0mL
90		臨床化学検査の外部精度管理調査における最適な調査試料の作製と評価	牟田 正一	一般社団法人 福岡県臨床衛生検査技師会	精度管理事業部長	①	②	検査残余血清30000.0mL
91		学生実習(輸血検査)	重松 康之	大阪医療技術学園専門学校 臨床検査技師科	学科長	①	①②	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿473.0mL、検査残余全血8本
92		備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	酒井 宏水	奈良県立医科大学	教授	①	①	赤血球45バッグ
93		佐賀大学医学部附属病院検査部内の実技講習会	山田 麻里江	佐賀大学医学部附属病院 検査部	係長	①	①	赤血球3バッグ、血漿480.0mL
94		譲渡血液を用いた輸血移植検査学の実習	山田 武司	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿728.0mL
95		輸血検査に係る実技講習会	木田 秀幸	札幌臨床検査技師会	会長	①		赤血球2バッグ、血漿473ml、検査残余全血10本
96		臨床検査精度管理調査	高井 康之	一般社団法人 大阪府医師会	会長	①	①	赤血球9バッグ、血漿4バッグ、血漿1863.0mL
97		学生実習用	三木 浩和	徳島大学病院 輸血・細胞治療部	副部長	①	①②	血漿779.0mL、検査残余全血36本
98		埼玉県臨床検査技師会 輸血検査実技研修会	神山 清志	公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿250.0mL
99		免疫検査学実習における輸血関連検査	太田 悦朗	北里大学 医療衛生学部	准教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
100		臨床検査技師育成課程における輸血検査実習	川村 宏樹	新潟医療福祉大学 医療技術学部 臨床技術学科	教授	①	①	赤血球9バッグ、血漿2バッグ、血漿762.0mL
101		卒後臨床研修医輸血検査実習	平野 公通	兵庫医科大学病院 医療人育成研修センター 卒後研修室	室長	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ
102		検査試薬に対する非特異反応等回避への使用	菅 亮彦	株式会社カインス	研究所 所長	②	②	検査残余血漿300本、検査残余血清2400本
103		脳梗塞再生治療に用いる骨髄幹細胞培養に使用する血小板溶解物の作成	川堀 真人	北海道大学 大学院医学研究科 脳神経外科学教室	助教	②	①	血小板16バッグ
104		感染症検査試薬の新規開発および改良検討	金子 敦	富士レボイ株式会社	試薬開発部長	①②	②	検査残余血清10000本
105		歯科臨床検査法における血液成分検査・血液型検査	丸山 明美	三重県立公衆衛生学院	学院長	①	②	検査残余全血4本
106		ヒト末梢血細胞を用いた抗酸菌の基礎研究	西村 知泰	慶應義塾大学 保健管理センター	准教授	②	①	全血2581.0mL
107		輸血・移植検査学実習	畑中 徳子	天理医療大学 医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ、血漿522.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
108		宮城県臨床検査技師会 精度管理事業	播磨 晋太郎	宮城県臨床検査技師会	精度管理部門員	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
109		マラリア原虫のライフサイクル分子基盤解明	美田 敏宏	順天堂大学	教授	②	①	赤血球18バッグ、血漿14バッグ
110		生命科学部・2年 基礎生命科学実習Ⅲ・学生実習(血液細胞解析法)	平位 秀世	東京薬科大学	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
111		熱帯熱マラリア原虫の細胞内物質輸送機構の解析	入子 英幸	神戸大学大学院 保健学研究科	准教授	②	①	赤血球7バッグ、血漿10バッグ
112		新鮮血液のABO式血液型判定実習	上野 易弘	神戸大学大学院 医学研究科 地域社会医学健康科学講座 法医学分野	教授	①	②	検査残余全血16本
113		再生医療用途を目的とした人工酸素運搬体の開発	伊藤 大知	東京大学大学院医学系研究科	教授	②	①	赤血球1バッグ
114		学生実習及び認定輸血検査技師試験研修	赤司 浩一	九州大学病院 検査部	検査部長	①	①	赤血球2バッグ、514.0mL
115		血中微生物回収方法の検討に用いる試料としての献血血液の使用	井上 聡	ニッターボーメディカル株式会社	メディカル研究開発センター 品質本部長	②	①	全血342.0mL
116		獨協医科大学病院 令和4年度臨床研修医卒後教育輸血検査実習	三谷 絹子	獨協医科大学病院 輸血部	部長	①	①	赤血球20バッグ、血漿6バッグ
117		iPS細胞技術に基づく同種臨床試験用巨核球細胞の樹立と血小板製剤の開発に関する研究	浅見 麻乃	株式会社メガカリオン	取締役 最高科学責任者	①②	①	血小板5バッグ
118		学生学内実習	熊取 厚志	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿262.0mL
119		日本総合健診医学会精度管理調査	五関 善成	一般社団法人 日本総合健診医学会	精度管理委員会 委員長	①②	②	検査残余血清21000.0mL
120		体外診断用医薬品の品質管理	柿沼 幸利	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社	診断薬カスタマーサポート部 部長	①②	②	検査残余全血448本
121		輸血検査精度管理調査	山本 茂一	株式会社カイノス	学術部長	①②	①	赤血球2バッグ、血漿5バッグ、血漿1652.0mL
122		検査技師実習	廣田 雅子	東京工科大学 医療保険学部 臨床検査学科	准教授	①	①	血漿534.0mL
123		既承認体外診断用医薬品における品質管理試験	殿岡 健太郎	株式会社シマ研究所 薬事部	部長	②	②	検査残余血清400本
124		熱帯熱マラリア原虫のin vitro培養系による病原機構の解明	中野 由美子	国立感染症研究所 寄生動物部	主任研究官	②	①	赤血球20バッグ、血漿3バッグ
125		新人臨床検査技師の技能研修	乗舟 政幸	独立行政法人 国立病院機構 中国四国グループ	臨床検査専門職	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿250.0mL
126		医学部における輸血検査実習	浅井 さとみ	東海大学 医学部附属病院	准教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
127		Wakoコントロールサーベイ(輸血検査)	高橋 かおり	富士フイルム和光純薬株式会社 臨床検査薬事業部 臨床検査学術開発部 カスタマーサポート部 カスタマーサポート	課長	②	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿993.0mL
128		培養マラリア原虫を用いた簡便なマラリア原虫検出システム構築研究	橋本 宗明	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	主任研究員	②	①	赤血球12バッグ、血漿4バッグ、血漿1800.0mL
129		ヒト臍帯血血液幹細胞の増幅と血球系細胞への分化能に関する研究	内田 恵理子	国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部	主任研究官	②	①	血漿1992.0mL
130		B型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主遺伝因子の探索研究	徳永 勝士	国立国際医療研究センター研究所 ゲノム医学プロジェクト	戸山プロジェクト長	②	②	検査残余全血4本、検査残余血清4本
131		パルスオキシメータ評価用血液循環シミュレータの開発	根木 潤	日本光電工業(株) 荻野記念研究所	所長	②	①	全血4175.0mL
132		輸血・移植検査学実習に使用	柴山 修司	つくば国際大学 医療保健学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球9バッグ、血漿11バッグ、血漿490.0mL
133		POCT向け血糖およびHbA1c検査の精度管理用コントロール血液の開発	菱沼 義寛	病態解析研究所	研究員	②	①	全血744.0mL
134		赤血球期マラリアを用いた新規抗マラリア薬スクリーニング	水上 修作	長崎大学 熱帯医学研究所 免疫病態制御学分野	准教授	②	①	赤血球45バッグ、血漿1バッグ、血漿924.0mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
135		抗HTLV-1抗体免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染予防モデルの開発とその有効性の検討	水上 拓郎	国立感染症研究所	次世代生物学的製剤研究センター 第一室長	②	①	全血200.0mL、血漿23バッグ、血漿21506.0mL
136		輸血検査精度管理	片出 珠々	三重県臨床検査技師会	輸血検査精度管理班	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿299.0mL
137		感染症安全対策体制整備事業輸血の安全性確保を目指した感染症安全対策体制構築のための研究	浜口 功	国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター	センター長	①②	①	血漿5バッグ
138		精度管理調査における献血血液の利用	渡邊 博昭	(一社)新潟県臨床検査技師会	会長	②	①	全血711.0mL
139		ヘパトカインを標的とした診断薬・治療薬の開発	董 俊成	金沢大学大学院 医学系研究科	教授	②	①	血漿17バッグ、血漿7609.0mL
140		輸血検査の理解と技術向上	細川 早織	高松赤十字病院 検査部	輸血検査係長	①	①	赤血球2バッグ、血漿487.0mL
141		臨床免疫学実習	伊藤 洋志	長浜バイオ大学	准教授	①	①②	赤血球4バッグ、血漿254.0mL、検査残余全血4本
142		臨床検査学科における免疫検査学(含む輸血検査学)、臨床化学等の検査学実習	脇 英彦	森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床検査学科	学科長/教授	①	①②	赤血球10バッグ、血漿1バッグ、血漿947.0mL、検査残余全血42本、検査残余血清200本
143		宮城県臨床検査技師会 精度管理事業	播磨 晋太郎	宮城県臨床検査技師会	精度管理部門長	①	①	血漿1本
144		臨床検査技師養成大学における臨床免疫学実習 I	坊池 義浩	神戸学院大学 栄養学部	准教授	①	①②	血漿1バッグ、血漿236.0mL、セグメント全血70本、検査残余全血50本
145		ヒト末梢血単球を用いた免疫応答反応のメカニズム解明	中川 晋作	大阪大学大学院 薬学研究科	教授	②	①	全血15801.0mL
146		ヒト血液を使用した血液ポンプの溶血試験	小阪 亮	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 健康医学工学研究部門	上級主任研究員	②	①	全血7563.0mL
147		関節リウマチにおける骨破壊のメカニズムに関してヒト末梢血単球を使用した研究	村田 浩一	京都大学大学院 医学研究科 リウマチ性疾患先進医療学講座	特定助教	②	②	白血球除去フィルター4個
148		(一社)神奈川県臨床検査技師会 精度改善事業	芹澤 昭彦	(一社)神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ
149		免疫検査学実習 輸血関連検査実習	山口 聡	東洋公衆衛生学院 臨床検査技術学科	学科長	①	①	赤血球5バッグ、血漿3バッグ、血漿257.0mL
150		学生に対する教育目的	田村 彰吾	北海道大学大学院 保健科学研究院	准教授	①	①②	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿462.0mL、セグメント全血90本、検査残余全血90本
151		香川県輸血検査外部精度管理調査	宮川 朱美	香川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿254.0mL
152		全衛連臨床検査精度管理調査	高木 康	公益社団法人 全国労働衛生団体連合会 臨床検査専門委員会	委員長	①	②	検査残余血清10000.0mL
153		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	小野川 傑	埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ
154		鳥取県臨床検査精度管理調査	湯田 範規	一般社団法人 鳥取県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿732.0mL
155		新規HTLV-1抗体検出試薬の開発	野田 健太	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 タンパク技術グループ	部長	①②	①	血漿8バッグ、血漿12808.0mL
156		血液センター供給血を用いた輸血移植学実習	山口 孝一	国際医療福祉大学	助教	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ
157		赤血球製剤及び血漿分画製剤における病原体不活化法の研究及びB型・C型肝炎ウイルスの培養系の確立	小林 清子	埼玉医科大学 医学部	講師	①②	①	血漿445.0mL
158		輸血検査学実習	林 由里子	群馬バース大学 保健科学部 検査技術学科	准教授	①	①	血漿262.0mL
159		東京都登録衛生検査所の精度管理事業	田中 朝志	東京医科大学 八王子医療センター	准教授	①	①	赤血球2本、血漿2バッグ
160		Medical gasによる血小板保存法の開発	矢倉 富子	東京医科大学 人体構造学分野	講師	①	①	血小板13バッグ
161		山形県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実技研修会	加藤 美加	山形県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
162		山形県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 精度管理	加藤 美加	山形県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿242.0mL
163		ヒト赤血球由来プロテアソームの構造研究	森本 幸生	京都大学 複合原子力科学研究所	教授	②	①	赤血球5バッグ
164		有効なクリオプレシピテートの院内調製と凍結乾燥の基礎検討	藤田 浩	東京都立墨東病院 輸血科	部長	①	①	血漿8バッグ
165		微小振動環境下における赤血球の流動特性に関する実験的研究	百武 徹	横浜国立大学	教授	②	②	検査残余全血35本
166		油症におけるダイオキシン類・PCBの人体暴露と評価手法に関する研究 ③血液中ダイオキシン類・PCB濃度測定の精度管理	堀 就英	福岡県保健環境研究所	計測技術課長兼生活化学課長	②	①	全血774.0mL
167		体外循環における回路内血液凝固の専属的検出システム構築	坂元 英雄	公立小松大学	講師	②	①	全血4805.0mL
168		令和4年度(第35回)和歌山県臨床検査技師会 臨床検査精度管理調査	田中 規仁	一般社団法人 和歌山県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿462.0mL
169		SMBG用コントロール物質の製造	奥 裕一	日水製薬株式会社 結城研究部	部長	②	①	赤血球12バッグ
170		HBs抗原陽性若年献血者におけるHBワクチンエスケープ変異株の検討	四柳 宏	東京大学 医学研究所 先端医療研究センター 感染症分野	教授	②	②	検査残余血漿91本
171		希少糖をベースとした新規抗マラリア薬の開発	新井 明治	香川大学 医学部	准教授	②	①	赤血球18バッグ、血漿2バッグ、血漿1599.0mL
172		標準血清およびコントロール血清への使用	菅 亮彦	株式会社カイノス	研究所所長	②	①②	血漿50バッグ、検査残余血清5000本
173		ヒト血液を用いたin vitro培養系のマラリア原虫のオルガネラの解析	彦坂 健児	千葉大学大学院 医学研究院 感染生体防御学	准教授	②	①	赤血球25本、血漿10本
174		公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 ヘモグロビンA1c精度管理事業での使用	増田 詩織	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2本、血漿1バッグ、血漿240.0mL
175		献血血液等 検査残余血液(全血):EDTA採血を用いた品質確認試験(検査)	黒澤 竜雄	富士フイルムヘルスケア マニファクチャリング株式会社 三重事業所 臨床診断薬生産本部 検査部	部長	②	②	検査残余全血540本
176		輸血・移植検査学実習	内堀 恵美	京都橋大学健康科学部臨床検査学科	専任講師	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿465.0mL
177		自己免疫介在性脳炎・脳症に関する前期研究201802	高橋 幸利	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	院長	②	②	保管年限(11年)を超えた調査用の血液2本
178		成分献血ドナーを対象としたiPS細胞由来の巨核球細胞ストック及び血小板産生に関する研究	江藤 浩之	京都大学iPS細胞研究所	教授	①	①	血漿10バッグ、血小板525.0mL
179		先進医療機器のための抗血栓性材料の開発	田中 賢	九州大学先端物質化学研究所	教授	②	①	全血1547.0mL
180		新しいヒト免疫不全ウイルス制御法の開発研究	布矢 純一	獨協医科大学 微生物学講座	講師	②	②	白血球除去フィルター5個
181		悪性腫瘍に対する養子免疫T細胞療法の開発研究	布矢 純一	獨協医科大学 微生物学講座	講師	②	②	白血球除去フィルター5個
182		ヒト免疫記憶細胞の製造方法の開発	徳元 康人	埼玉医科大学	講師	②	②	白血球除去フィルター1個
183		抗マラリア活性化合物の探索と創薬研究	和田 章	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター	専任研究員	②	①	赤血球20バッグ、血漿1バッグ
184		マイクロ流路デバイス用の前処理チップの開発	須釜 裕司	日東紡績株式会社メディカル研究開発センター	センター長	②	①	全血360.0mL
185		血小板機能低下に対し新鮮凍結血漿や血小板製剤投与がトロンボエラストメリー(ROTEM)上の血餅硬度や血餅安定化に及ぼす影響	小森 万希子	東京女子医科大学足立医療センター麻酔科	部長	①	①	血漿16バッグ
186		臨床検査技師養成大学における臨床免疫学(輸血療法検査)教育・手技の修得	清水 慶久	北陸大学	教授(臨床免疫学担当)	①	①②	血漿2バッグ、血漿643.0mL、検査残余全血8本
187		コントロール血液・血清による日常検査の精度管理	西谷 陽子	熊本大学大学院生命科学部法医学講座	教授	②	①	全血1213.0mL
188		ヒト赤血球およびヒト抹消細胞を用いたマラリア原虫生成物による免疫応答機構の解析	ジェヴァイア チョバン	東京大学医学研究所 感染免疫部門 マラリア免疫学分野	教授	②	①	赤血球17バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
189		高知県臨床検査精度管理調査の血液試料(保健事業目的のため)	市川 厚	一般社団法人 高知県臨床検査技師会	臨床検査技師	②	①	全血2バッグ
190		学内検査実習(免疫検査学実習Ⅱ)	天川 雅夫	岐阜医療科学大学	准教授	①	①②	赤血球14バッグ、血漿3バッグ、血漿1599.0mL、セグメント全血100本
191		長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班活動	松永 光博	長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班	班長	①	①	赤血球3バッグ
192		熊本県内における臨床検査精度向上のための精度管理	田中 信次	熊本県臨床検査技師会	熊本県臨床検査技師会会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿715.0mL
193		熱帯熱マラリア原虫薬剤耐性機構の研究	新澤 直明	東京医科歯科大学	助教	②	①	赤血球52バッグ、血漿47バッグ、血漿1154.0mL
194		日本赤十字社より譲渡を受けた献血血液を用いた熱帯熱マラリア原虫培養系を利用した、マラリアワクチン、薬剤、診断法の評価系の開発	狩野 繁之	国立研究開発法人 国立国際医療センター 研究所	熱帯医学・マラリア研究部長	②	①	赤血球21バッグ、血漿21バッグ
195		輸血前検査の精度管理(東京都病院経営本部 東京都立病院輸血分野検討会 統一精度管理(凝集サーベイ))	市川 智士	東京都監査医務院	科長	①	①	赤血球3バッグ
196		令和4年度秋田県臨床検査技師会精度管理調査	加藤 亜有子	秋田県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿600.0mL
197		令和4年度秋田県臨床検査技師会輸血細胞治療部門実技研修会	加藤 亜有子	秋田県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球3バッグ
198		アレルギー病態の分子機構解明	上野 英樹	京都大学大学院 医学研究科 免疫細胞生物学	教授	②	②	白血球除去フィルター8個
199		感染症検出試薬(10項目)の陰性分布および非特異反応発生頻度の検討、並びに、軽減法の開発	野田 健太	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 タンパク技術グループ	部長	①②	②	検査残余血清6600本
200		HIV抗原/抗体検査試薬の改良	野田 健太	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 タンパク技術グループ	部長	①②	②	検査残余血清130本
201		ヒトパルボウイルスB19抗原検出試薬の開発	野田 健太	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 タンパク技術グループ	部長	①②	②	検査残余血清361本
202		群馬県臨床検査精度管理調査	松井 直紀	一般社団法人 群馬県臨床検査技師会	精度保証部精度管理委員会委員長	①	①	赤血球10バッグ、血漿5バッグ、血漿1674.0mL
203		2年次 免疫学実習	谷澤 正博	西武学園医学技術専門学校	臨床検査技師 学科長	①	①	赤血球8バッグ、血漿4バッグ
204		北海道医療大学 医療技術学部 輸血・移植学演習	幸村 近	北海道医療大学 医療技術部	学部長・教授	①	①②	赤血球6バッグ、血漿2バッグ、血漿743.0mL、セグメント全血203本、検査残余全血30本
205		青森県臨床検査技師会 輸血・細胞治療部門 精度管理調査	小山内 崇将	青森県臨床検査技師会	学術班 輸血・細胞治療部門 部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿509.0mL
206		ヒト血液を用いたマラリア原虫の培養	徳舛 富由樹	長崎大学 熱帯医学研究所 細胞環境構築学分野	教授	②	①	血漿18バッグ、血漿1460.0mL
207		発熱性物質評価法の開発	工藤 由起子	国立医薬品衛生研究所	衛生微生物部長	②	①	全血1638.0mL
208		iPS細胞由来のHLAクラスI欠失巨核球細胞のストックおよび血小板産生に関する研究	江藤 浩之	京都大学iPS細胞研究所	教授	①	①	血漿10バッグ、血小板400mL
209		血漿セレン含有タンパク質 セレノプロテインPによるインスリン抵抗性誘導メカニズムの解明	三田 雄一郎	同志社大学 生命医科学部 医生命システム学科	助教	②	①	血漿1842.0mL
210		広範囲の感染症治療に有効な抗菌ペプチドの開発	三澤 隆史	国立医薬品衛生研究所	室長	②	②	検査残余全血15本
211		血小板凝集活性に対するGal-9の作用とその分子標的の同定	有川 智博	東北医科薬科大学 医学部 医学教育推進センター	准教授	②	①	血小板3バッグ
212		熱帯熱マラリア原虫の培養系を用いた抗マラリア新規治療薬の探索	北 潔	長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究	教授	②	①	赤血球50バッグ
213		血液凝固・線溶検査用コントロール物質の製造	奥 裕一	日水製薬株式会社	結城研究部 部長	②	①	血漿6バッグ
214		精度管理調査の改善と施設間差解消のための検体性状の改善についての検討	浦田 香代美	地域医療機能推進病院 臨床検査技師会	精度管理委員長	①	②	検査残余血清60000.0mL
215		質量分析法による献血血液のメタボロミクスプロファイリング	北 芳博	東京大学大学院 医学系研究科	准教授	②	②	検査残余血漿3360本、検査残余血清3360本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
216		輸血学実習授業のための譲渡血	高山 成伸	大東文化大学 スポーツ・健康科学部	教授	①	①	赤血球11バッグ、血漿5バッグ
217	○	(一社)愛媛県臨床検査技師会精度管理調査事業(輸血分野)	高村 好美	(一社)愛媛県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿692.0mL
218	○	学生に対する教育目的(輸血検査の手順と結果の判断力を身につけ、血液製剤の適応と選択できる。)	佐藤 進一郎	高知学園大学 健康科学部臨床検査学科	教授	①	①②	赤血球8バッグ、血漿2バッグ、血漿1413.0mL、セグメント全血140本、検査残余全血36本
219	○	藤田医科大学医療科学部の臨床検査技師養成教育のため	松浦 秀哲	藤田医科大学 医療科学部	准教授	①	①②	赤血球1バッグ、血漿3バッグ、血漿524.0mL、検査残余全血44本
220	○	東京都臨床検査技師会 輸血レベルの向上を目指した教育的使用	原田 典明	公益社団法人 東京都臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球6バッグ、血漿4バッグ、血漿511.0mL
221	○	茨城県臨床検査技師会による所属施設への輸血検査業務支援	岩田 幸広	公益社団法人 茨城県臨床検査技師会	生命倫理検査部門輸血・移植検査分野分野長	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
222	○	細菌培養システムを用いた作製血小板の研究	松原 由美子	株式会社AdipoSeeds	代表取締役	①	①	血小板5バッグ
223	○	熊本県内における臨床検査精度向上のための輸血検査技術講習会の実技指導	田中 信次	熊本県臨床検査技師会	熊本県臨床検査技師会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿258.0mL
224	○	ヘモグロビン試薬の調製	外山 幸司	(社)日本血液製剤機構 京都工場	品質管理部長	②	①	赤血球6バッグ
225	○	犯罪鑑識を目的とした血液の利用について	谷口 真司	滋賀県警察本部刑事部 科学捜査研究所	総括研究員	②	①	全血1バッグ
226	○	等速電気泳動による血漿セリフリーDNAの分離法の最適化	二井 信行	芝浦工業大学	教授	②	②	検査残余血漿30本
227	○	HBs抗体検査試薬の改良	野田 健太	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 タンパク技術グループ	部長	①②	②	検査残余血清500本
228	○	グリコアルブミン検査試薬の開発	伊藤 成史	株式会社PROVIGATE 研究開発本部	CTO	②	②	検査残余血清576本
229	○	輸血検査に関する実習	安田 好徳	札幌医学技術福祉歯科専門学校 医療技術部 臨床検査技師科	専任教員	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ、480.0mL、セグメント全血70本
230	○	再生医療に用いるiPS細胞の製造法・評価法などプロセス改良の検討に関する研究	塚原 正義	京都大学iPS細胞研究財団 研究開発センター	センター長	①	②	白血球除去フィルター13個
231	○	輸血検査精度管理調査	松下 正	日本輸血・細胞治療学会	理事長	①	①	赤血球21バッグ、血漿12バッグ
232	○	FFP解凍装置の改良による製剤品質への影響	池田 和彦	福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座	教授	①	①	血漿30バッグ
233	○	臨床検査技師養成のための輸血関連検査の教育	梅木 一美	九州保健福祉大学 生命医科学部 生命医科学科	教授	①	①②	血漿710.0mL、検査残余全血10本
234	○	COVID-19を中心とした新興感染症に対する免疫基盤研究	藤井 真一郎	国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター	免疫細胞治療研究チーム チームリーダー	②	①	全血8683.0mL
235	○	麻酔薬の腫瘍免疫における免疫チェックポイント分子に及ぼす影響の探索について	鬼塚 信	九州保健福祉大学	教授	②	②	白血球除去フィルター16個
236	○	培養マリア原虫を使用した自動血球分析装置の性能評価	小西 綾	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部細胞技術グループ	部長補佐	②	①	赤血球6バッグ
237	○	血小板輸血による造血幹細胞移植後片対宿主病への影響	原 隆二郎	東海大学	助教	②	②	血小板セグメント5本
238	○	免疫システムの網羅的解析	丹野 秀崇	東京都医学総合研究所 がん免疫プロジェクト	プロジェクトリーダー	②	①	全血1405.0mL
239	○	ヒト免疫細胞の活性化誘導を介した抗腫瘍薬の開発	江指 永二	SBIバイオテック株式会社	研究開発部 部長	②	①②	全血808.0mL、白血球除去フィルター2個
240	○	京都府臨床検査技師会 精度管理調査	日下部 昌平	一般社団法人京都府臨床検査技師会 輸血研究班	班長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿440.0mL
241	○	マイクロ流路デバイスを用いた白血球分離手法の開発	田口 明	京セラ株式会社 EPデバイス開発部	EPデバイス開発部責任者	②	②	検査残余全血360本
242	○	B型肝炎ウイルスのPre-S1領域に対するヒト抗体の検出技術の開発	織田 康則	株式会社ビークル研究所	マネージャー	②	②	検査残余血漿50本、検査残余血清20本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
243	○	献血後にSARS-CoV-2に感染した献血者の献血血液中サイトカインの動態に関する研究	佐竹 正博	日本赤十字社 血液事業本部 中央血液研究所	所長	②	①	血漿176mL

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本赤十字社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		不規則抗体陽性パネルの作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿111バッグ
2		赤血球系前駆細胞の分化過程における赤血球抗原発現量の解析の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	白血球除去フィルター15個、検査残余血漿10本
3		PK7400用コントロールの作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1095本
4		同定不能検体を対象とした血液型遺伝子検査法の構築の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
5		不規則抗体同定用パネル血球の作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球16バッグ、検査残余全血81本
6		HEV NAT検査システムの評価および感染実態調査の試料(一部はパネル)として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿164バッグ、検査残余血清1701本
7		血液型関連パネル血球の作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球24バッグ
8		パルボB19抗原検査システムの評価および陽性検体の解析(一部はパネル)として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿200バッグ、検査残余全血422本
9		研修生等の実技研修	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	セグメント26本、検査残余全血22本
10		北海道献血者におけるALT 不合格検体の解析の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清10本
11		梅毒の検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿24バッグ
12		HTLV-1抗体陽性血液の提供について(依頼)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿8バッグ、検査残余全血8本
13		赤血球型遺伝子の多型解析と検査法の確立(中央-1806:MNS変異型の抗原性と対応する遺伝子の同定、中央-2023:Kidd血液型抗原の発現に關与する遺伝子変異を含む)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血16本
14		NAT陽性(MPX陽性かつ同定検査陰性)血液の確保依頼について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿5バッグ
15		スクリーニングNAT陽性(HBV同定)血液の確保と送付について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1バッグ
16		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査実施にかかる検体の確保について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清170本
17		献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査(第2回)への協力について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清287本
18		単球貪食試験	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血25本
19		献血者における抗A・抗B抗体価低下の調査(赤-143)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
20		血小板貪食試験	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1370本
21		白血球型・血小板型ワークショップ	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血184本
22		HLAタイピングパネル	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血13本
23		ICFA法によるHPA抗体検査	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血10000本
24		二次製剤用	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球21バッグ、血漿9バッグ、血小板1バッグ
25		研修用	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	全血8バッグ
26		血液製剤の品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球4バッグ、血漿31バッグ
27		「血小板保存に関する研究(製剤-168)」の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血小板4バッグ、血小板測定用検体88本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
28		血液製剤の保存における可塑剤(DEHP)溶出量に関する研究(製剤-167)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球9バッグ、血漿18バッグ
29		「血小板溶解液に関する研究(製剤-175)」の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血小板3バッグ、白血球除去フィルター498個
30		「PAS-PC由来血小板溶解液に関する研究(製剤-174)」の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血小板1バッグ
31		「PC採血で凝集を形成するドナーの要因に関する研究(製剤-177)」の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿2バッグ、血算用検体24本
32		2022年度血液事業研究課題製剤-169の試料として使用するため	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿36バッグ、血小板3バッグ、血小板測定用検体85本
33		血小板製剤の品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	血小板数測定用検体20本
34		赤血球製剤の品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球11バッグ
35		血漿製剤の品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿3バッグ
36		血小板溶解液に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	白血球除去フィルター178個
37		NAT検査用試薬の改良等を目的とした血液バッグの送付	柴崎 至	東北ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球1バッグ、血漿9バッグ
38		厚生労働省が実施する新型コロナウイルス感染症抗体保有率実態調査のため	柴崎 至	東北ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清2260本
39		依頼検査用検体	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血5370本
40		まれ血・垂型・抗体同定(確認・検討用)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血8バッグ、赤血球50バッグ、血漿51バッグ
41		自動検査機器の精度管理用(原料血用・抗原陰性血用)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	全血4バッグ、赤血球96バッグ
42		不規則抗体同定用パネル血球原料等	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	全血5バッグ、赤血球137バッグ、血漿1バッグ
43		血液型検査用試薬の製造原料として和光純薬工業(株)に提供	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	全血6バッグ、赤血球83バッグ、検査残余全血210本
44		モノクローナル抗体試薬の製造	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	全血1バッグ、検査残余全血1212本
45		血液型検査用試薬検討	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿2バッグ、検査残余全血194本
46		血液型検査用試薬の製造原料として和光純薬工業(株)に提供	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1485本
47		不規則抗体スクリーニング検査用自動機器(IH-1000)用試薬原料	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球2バッグ
48		教育訓練	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ
49		検査用コントロールの作製	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿4バッグ、血小板セグメント4本
50		血研第146号(令和3年7月29日付)によるNAT陽性(MPX陽性かつ同定陰性)血液の確保依頼について	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿145バッグ
51		HTLV-I陽性検体の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿7バッグ
52		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査実施にかかる検体の確保について 献血時の検査用検体の残余血液を用いた新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査(第2)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清271本
53		白血球・血小板ワークショップHPA抗体検出のルーチン化に向けた検討	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血460本
54		血小板抗体検査用パネル作成のため	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血小板数測定用検体49本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
55		白-98簡便・迅速なHPA型タイピング試薬の開発 (血研第174号 令和3年9月27日付)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血13本、HLA用検体3本
56		精度管理用	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体1本
57		ABO精査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球22バッグ、血漿23バッグ
58		Rh精査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球5バッグ
59		試薬の改良等	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿53バッグ
60		精度管理用	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	血漿1バッグ
61		遡及調査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿3バッグ
62		不規則抗体精査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿9バッグ
63		合成血教育訓練	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球11バッグ、血漿11バッグ
64		洗浄赤血球製造に係る教育訓練	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球1バッグ
65		解凍赤血球教育訓練	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球13バッグ
66		自動輸血検査装置(PK7400)の適格性評価	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血802本
67		PK用試薬の製造(和光)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球7バッグ、検査残余全血1821本
68		血液型関連検査用コントロール及びパネルの作製	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2908本
69		原料血液検査・その他一次検査用・二次検査用・ 精査用コントロール及びパネル	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血494本
70		三次検査	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球17バッグ、血漿4バッグ、検査残余血清83本、血算用検体103本
71		用手法用血球試薬の製造	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球167バッグ、セグメント132本、血算用検体2本
72		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査実施にかかる検体の確保について	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清2887本
73		「NAT陽性(MPX陽性かつ同定検査陰性)血液の確保依頼について」に対する対応	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿14バッグ
74		HTLV-1抗体陽性血液の提供について(依頼)	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿12バッグ
75		HTLV-1陽性血液の提供について(依頼)2	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿5バッグ
76		フローサイトメーター(Navios)の精度管理	室井 一男	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体1本
77		非溶血性副作用調査及び新規検査方法開発に関連した白血球抗体の検出に使用する	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血810本、血小板数測定用検体886本
78		非溶血性輸血副作用検査の健常人対象として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余血清100本
79		赤血球前駆細胞株におけるMYH10の機能解析	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	全血1バッグ
80		好塩基球活性化試験に使用可能な不死化好塩基球株の樹立	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血漿3バッグ
81		赤血球前駆細胞株を用いた不規則抗体検査用血球試薬の開発	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血122本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血液の使用目的 (※1)	献血液の区分 (※2)	献血液の種類、量など
82		質量分析装置MALDI-TOF MSによる細菌同定の検証	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板13バッグ
83		血液事業研究:細菌感染疑い血液製剤中の原因菌の分子遺伝学および生化学的解析(中央-2205)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板10バッグ
84		令和4年度事業研究:赤血球製剤における好冷細菌の増殖リスク調査および検出法の検討(中央-2207)予備検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	赤血球22バッグ
85		白血球中に貪食された細菌DNA検出の検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	全血2バッグ
86		感染症スクリーニング検査陽性血液の解析(中央-2204)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余血漿262本
87		血液事業研究:コバス5800システムを用いたHTLVPCR検査の検討(追加申請)の予備検討(拡散抽出効率の検討)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	血算用検体20本
88		令和4年4月4日付血製22号に基づく譲渡血対応(29J0011:国立感染症研究所 浜口功先生)	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血漿10バッグ
89		Xeフラッシュ光を用いた血小板製剤の病原体不活化・低減化技術の開発	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①②	赤血球7バッグ、血漿2バッグ、血小板60バッグ 血小板数測定用検体135本
90		血小板機能を反映したin vivoモデルの開発とその改良	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①②	血小板1バッグ、血小板数測定用検体104本
91		研究グループ、研究課題の試料として	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	②	検査残余全血719本
92		大量出血症例における冷蔵血小板の有効性をex vivoで探索するための前向き観察研究	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	全血1バッグ、赤血球8バッグ、血小板10バッグ
93		PC有効期間延長にかかる洗浄血小板製剤の品質データの取得	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板4バッグ
94		製剤開発に係る検討のため	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	赤血球13バッグ、血漿7バッグ、血小板21バッグ
95		血液事業研究の予備検討に使用するため	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	赤血球5バッグ
96		冷蔵保存血小板における室温曝露の影響の検討	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板8バッグ
97		白血球数試験の検査体制の変更について	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血小板1バッグ
98		献血後にSARS-CoV-2に感染した献血者の献血液中サイトカインの動態に関する研究	谷 慶彦	中央血液研究所	所長	①	①	血漿176ml
99		凝集目合わせの教育訓練	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血5本
100		検査機器のパリデーション	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血650本
101		PK血球試薬の本社依頼品質試験用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血12000本
102		富士フィルムと光純薬への譲渡用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1140本
103		血液型検査に使用する精度管理血球試薬調製用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2200本
104		血液型検査に使用するパネル血球試薬調製用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血250本
105		血液型検査三次検査に使用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2500本
106		苦情調査(クロスマッチ)に使用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血10本
107		血液型検査に使用する解離液、レクテン等の調製用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
108		血液型検査に使用する生理食塩水の受入試験用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血200本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
109		血液型検査に使用する抗体試薬調製用	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	血漿45バッグ
110		梅毒追加検査(RPR法)の陰性コントロール作成のため	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血漿30本
111		「抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染予防モデルの開発とその有効性の検討」の試料として	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿17バッグ、検査残余血漿97本
112		中央血液研究所での検討	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	血漿15バッグ
113		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査検体として株式会社BMLに提供	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1193本
114		新型コロナウイルス感染症の抗体保有率実態調査(第2回)検体として株式会社LSIメディエンスに提供	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1951本
115		ARCHITECTMultiSRシステム及び同システム用試薬の品質の維持及び向上(HTLV-1)試料としてアポットジャパン合同会社に提供	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	血漿50バッグ
116		規格試験認定試験のサンプル	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ、血小板12バッグ
117		外観試験に係る教育訓練のため	竹尾 高明	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	全血4バッグ、血小板2バッグ
118		血液型検査用試薬の製造原料として富士フィルム和光純薬(株)に提供	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球64バッグ
119		血液型検査用試薬(自家調製)の製造原料のため	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球28バッグ
120		PK用コントロールの作製	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球55バッグ
121		血液型関連検査用コントロール及びパネルの作製	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血949本、検査残余血漿20本
122		モノクローナル抗体力価試験用	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血91本
123		精査目的	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球1バッグ、血漿31バッグ
124		試薬の品質試験	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1280本
125		コロナ抗体保有率実態調査	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1253本
126		コロナ抗体保有率実態調査	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1760本
127		「受身活性化試験による臍帯血等の移植後の有害事象の予見」の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血8本
128		PC-HLA関連検査に使用する試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血8本
129		血小板抗体・抗原検査法検討の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血697本
130		副作用検査などの試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血102本
131		CRISPR/Cas9を用いたIPS細胞由来HPA発現パネル巨核球細胞株の開発	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清100本
132		分子標的がん治療薬が引き起こす溶血性貧血の副作用の分子機構の解明およびリスク変動要因の探索	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血80本
133		UV LEDによる血液製剤感染因子低減化と血液成分への影響	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	血漿8バッグ、血小板68バッグ
134		2次元色彩計を用いた血液製剤の外観試験の検討	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球14バッグ、血漿7バッグ、血小板10バッグ
135		生体内を模倣した血小板機能評価方法の開発の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球108バッグ、血小板66バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
136		脳梗塞細胞治療に向けた臍帯血細胞の性状分析 (成人末梢血細胞との比較)の試料として	瀧原 義宏	近畿ブロック血液センター	所長	①	①②	全血2バッグ、白血球除去フィルター27個
137		PK7300コントロール	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3066本
138		血球試薬	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血297本
139		二次検査コントロール	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血30本
140		抗体検査コントロール	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3本
141		職員目合わせ	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血88本
142		三次検査	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血433本
143		依頼検査	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血479本
144		HLA検査コントロール	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血143本
145		品質試験	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血32本
146		実技研修会	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血47本
147		まれ血検査コントロール	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
148		IH血球試薬	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球34バッグ
149		採血部門に係る教育訓練のため	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体75本
150		HTLV-1 99.9以上のため	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ、血漿12バッグ
151		新型コロナウイルス感染症抗体保有率実態調査のため	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1415本
152		新型コロナウイルス感染症抗体保有率実態調査のため	小林 正夫	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清2464本
153		「HTLV-1陽転化パネルの作成(感染-116)」	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	全血1バッグ、赤血球2バッグ、血漿1316バッグ、血小板10バッグ、検査残余血清2125本
154		「九州地区におけるダニ感染症の疫学調査(感染-117)」	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清4086本
155		HTLV-I検査試薬の開発に係る検討のため	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	全血2バッグ、血漿99バッグ、血小板1バッグ、検査残余血清194本
156		廃棄試料中に含まれる白血球成分の有効活用検討(製剤-162)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	白血球除去フィルター98個
157		「HTLV-1 LIA判定保留事例の性状解析(感染-122)」	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清90本
158		「HTLV-1抗体スクリーニング検査の特異度に関する検討(感染-123)」	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清89本
159		エンドキシン	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	血小板16バッグ
160		血液製剤の有効性・安全性の向上	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ
161		抗原陰性血スクリーニング用コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血500本
162		血液型一次検査(PK7300)用コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球99バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
163		血液型関連検査用パネル血球作製として	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球1バッグ
164		Rh血液型二次検査用RhD陽性コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3本
165		Rh血液型二次検査用RhD陰性コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3本
166		製剤・検査基礎研修会試料として	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	赤血球3バッグ、検査残余全血10本
167		沖縄研修用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球1バッグ、血漿1バッグ
168		WAKFlow HLA-B、Cタイピング試薬受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体3本
169		WAKFlow HLA-Bタイピング試薬受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体1本
170		WAKFlow HLA-Aタイピング試薬受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体2本
171		WAKFlow HLA-A、Cタイピング試薬受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体1本
172		WAKFlow HLA-A、B、Cタイピング試薬受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体1本
173		HPA抗体検査(HPA型既知の血小板を使用した抗体検査(精査))に使用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血6本
174		変更管理に係るバリデーション	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体16本
175		令和4年度 血液事業研究(白-99)(DNAタイピング)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血681本
176		令和4年度白血球・血小板型ワークショップ(W01)(抗体検査及びタイピング)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血462本
177		Quickgeno DNA whole blood kit S受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体1本
178		ICFA品質試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体13本
179		ICFA受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	HLA用検体2本
180		NAT試薬の変更に伴うNAT陽性血液の解析(中央血液研究所)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ、血漿94バッグ、血小板20バッグ
181		厚生省が実施する新型コロナウイルス感染症抗体実態調査に協力するため	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清4326本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【KMバイオリジクス株式会社への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1	○	血漿交換用置換液 (Alb溶液) の安全性確認	大久保 淳	東京医科歯科大学 血液浄化療法部	臨床工学士	②	③	献血アルブミン25%静注12.5g/50mL「KMB」 40本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【KMバイオロジクス株式会社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1	○	KMバイオロジクス株式会社 自己使用 (製法改良、試作製造などの研究開発)				①	②	血液凝固第Ⅶ因子工程サンプル 3mL 活性化血液凝固第Ⅶ因子原画分 322mL 血液凝固第Ⅹ原画分 403mL 血液凝固第Ⅹ因子工程サンプル 240mL 血液凝固第ⅩⅢ因子工程サンプル 40mL 血液凝固第ⅩⅢ因子原画分 20mL PPSB画分 30.5L 沈殿Ⅱ溶解液 600mL 沈殿Ⅴ溶解液 1500mL クリオブレインビーズ溶解液 800mL クリオ上清液 500mL フィブリノゲン原画分 206g フィブリノゲン工程サンプル 1280mL アルブミン工程サンプル 9200mL フィブリノゲン凍結乾燥粉末 中間製品 16,000mg トロンビン凍結乾燥粉末 中間製品 236,375単位 バイクロット工程サンプル 99mL バイクロット配合静注用 中間製品 240本 献血アルブミン25% 静注12.5g/50mL 中間製品 10本 バイクロット配合静注用 3本 ノバクトM静注用2000単位 3本 コンファクトF注射用500 3本 注射用アナクト-C2,500単位 3本
2	○	KMバイオロジクス株式会社 自己使用 (製法改良、試作製造などの研究開発、薬事対応用のデータ取得)				①	③	分画Ⅰ(上清) 3,700L 分画Ⅱ+Ⅲ(沈殿) 5.5kg グロブリン中間体 15g ヒスタグロビン工程サンプル 100mL ヒスタグロビン皮下注用 中間製品 320本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本血液製剤機構への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		ウイルス除去フィルターの除去機構解明		旭化成メディカル株式会社バイオプロセス事業部	課長	①	①	グロブリン筋注 8本 フィブリノゲンHT静注用 18本 献血ウェノグロブリンIH10%静注 371本 献血ウェノグロブリンIH5%静注 3,317本
2	○	感染症モデル動物に対する免疫グロブリンと抗菌薬の併用効果の検証		福山大学薬学部	教授	①	①	献血ウェノグロブリンIH10%静注 1本
3	○	皮弁生着に対するアンチトロンビンの効果検証		岐阜大学大学院医学系研究科 救急・災害医学分野	准教授	①	①	ノイアート静注用 16本
4	○	大量輸血プロトコール(MTP)におけるフィブリノゲン製剤投与と新鮮凍結血漿投与の有用性に関する比較検討(令和4年8月～令和6年1月)		帝京大学 医療科学技術部 臨床検査学科	准教授	①	①	フィブリノゲンHT静注用 2本
5	○	アルブミン製剤と希釈液の種類が置換液組成に及ぼす影響		東京医科歯科大学医学部附属病院	副技師長	①	①	献血アルブミン25%静注 24本 献血アルブミン5%静注 24本 赤十字アルブミン25%静注 24本
6	○	BKウイルス感染症の静注用グロブリンによる予防治療に必要な期間に関する研究		千里金蘭大学	教授	①	①	献血ウェノグロブリンIH10%静注 2本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本血液製剤機構内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	①	クロスエイトMC静注用 4本 ノイアート静注用 111本 ハプトグロビン原画分工程液 (HAP混合液) 200mL ハプトグロビン静注 10本 フィブリノゲンHT静注用 581本 血漿 4,900mL 献血アルブミン20%静注 4本 献血アルブミン25%静注 36本 献血アルブミン5%静注 4本 献血ウェノグロブリンIH10%静注 44本 献血ウェノグロブリンIH5%静注 6本 抗HBs人免疫グロブリン筋注 13本 上清1ろ液 3,000mL
2		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	②	Filt. V 25,000mL QAEカラム吸着画分 25,000mL アボトランスフェリン 750mg 1本
3		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	③	Fr. II+IIIベイスト 30,000 g Fr. IVベイスト 6,000 g Fr. I ベイスト 24,000 g Fr. I ベイスト抽出溶液 180 mL アプライ液1 2,010mL アルブミン製剤のカラム(2)処理液 1,600mL アンテロンビンIII原画分 1,000mL ウェノグロブリン原画分工程のpH調節済濃縮液1 600mL ノイアート静注用1500単位 15本 ハプトグロビン原画分 2,000mL ハプトグロビン原画分工程液 (アプライ液2) 200mL ハプトグロビン集合液 500mL 塩濃度調整-1液 400mL 血漿 779,210mL 洗浄画分2-1 1,000mL 脱リン酸終了液 1,000mL
4	○	JB 機構内研究 (治験・医師主導臨床研究等)				①	③	献血ウェノグロブリンIH10%静注5g/50mL 1,037本 フィブリノゲンHT静注用1g「JB」 18本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【武田薬品工業株式会社への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1	○	新型コロナウイルス(COVID-19)の治療薬に関する研究	満屋 裕明	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター		②	③	特殊免疫グロブリン(COVID-19高度免疫グロブリン) 2.5g製剤 72本
2	○	同上	倭 正也	地方独立行政法人 りんくう総合医療センター		②	③	特殊免疫グロブリン(COVID-19高度免疫グロブリン) 2.5g製剤 23本
3	○	同上	城戸 康年	公立大学法人大阪 大阪公立大学		②	③	特殊免疫グロブリン(COVID-19高度免疫グロブリン) 2.5g製剤 24本
4	○	同上	白野 倫徳	地方独立行政法人大阪市民 病院機構 大阪市立総合医療センター		②	③	特殊免疫グロブリン(COVID-19高度免疫グロブリン) 2.5g製剤 22本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【武田薬品工業株式会社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		日本製薬株式会社/武田薬品工業株式会社 自己使用(試験製造)				①	③	原料血漿換算:485L分 (内訳) P II + III :25kg(460L分) S I :30kg(25L分)

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄面分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの